

## 平成24年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,802	8,216	4,133	4,083	△ 111	△ 44
2 千 石	3,294	6,571	3,302	3,269	△ 38	8
3 内 山	4,776	7,020	3,763	3,257	△ 62	△ 8
4 大 和	3,211	6,719	3,366	3,353	△ 42	△ 10
5 上 野	7,252	15,564	7,580	7,984	△ 84	△ 43
6 高 見	6,268	12,409	5,974	6,435	△ 70	△ 36
7 春 岡	6,181	10,145	5,409	4,736	△ 49	14
8 田 代	11,108	21,357	10,249	11,108	△ 63	△ 8
9 東 山	9,555	18,567	9,076	9,491	△ 72	△ 7
10 見 付	4,295	8,241	4,107	4,134	△ 44	16
11 星ヶ丘	3,399	6,715	3,017	3,698	△ 25	18
12 自由ヶ丘	3,207	6,993	3,148	3,845	△ 33	13
13 富士見台	6,360	15,753	7,261	8,492	△ 71	0
14 宮 根	3,655	8,469	4,022	4,447	△ 48	△ 25
15 千代田橋	3,604	8,755	4,087	4,668	△ 48	6
千 種 区 計	80,967	161,494	78,494	83,000	△ 860	△ 106
H23. 8. 1	81,177	160,988	78,385	82,603	49	60
対 前 年 比	-210	506	109	397	△ 909	△ 166
名 古 屋 市	1,022,423	2,266,129	1,116,055	1,150,074	△ 13,815	△ 2,180
愛 知 県 ( H24. 7. 1 )	2,985,892	7,430,880	3,712,244	3,718,636	1,619	1,406

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	121	88	33	1,047	1,186	△ 139

【参考】

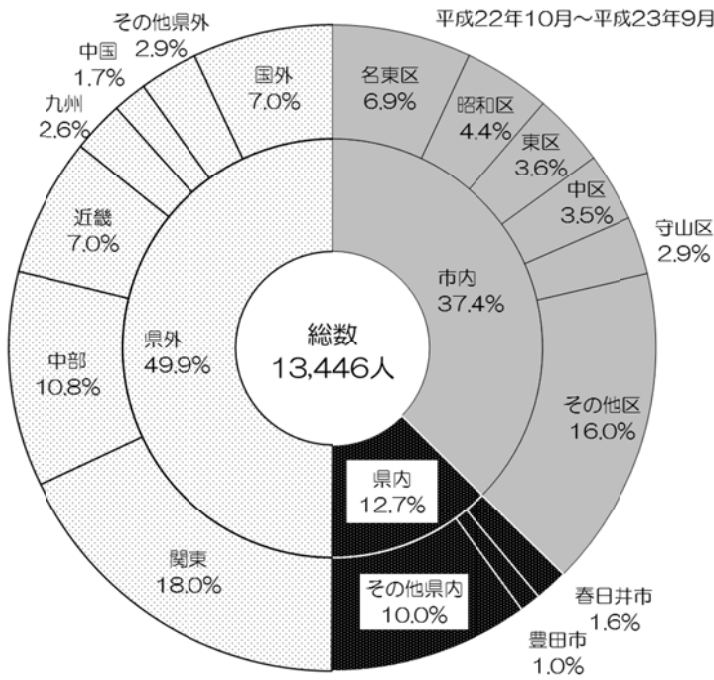
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

- 注1) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。
- 注2) 前月(平成24年7月)中の増減内訳(社会動態)には、法改正に伴う外国人人口の取扱変更による数値変動が含まれています。

## 千種区の地域別転入・転出者数の状況

平成 24 年 8 月 1 日現在の千種区の人口は 106 人減の 161,494 人となっており、世帯数は 860 世帯減の 80,967 世帯となっています。今回は千種区の転入・転出者数の状況を、名古屋市内、愛知県内および愛知県外に分けて見ていきます。

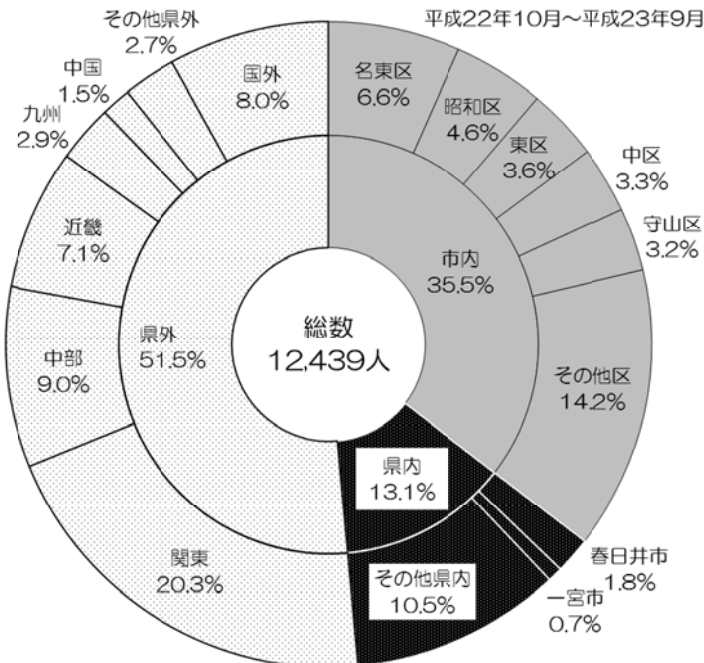
図 1: 千種区の地域別転入者数の割合 (%)



※中部地方は愛知県を除く

平成 22 年 10 月から平成 23 年 9 月までの千種区の転入者は、市内間の異動を含めると、13,446 人でした。転入元を地域別に見ると(図 1)、愛知県外からの転入者は 49.9%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が 18.0%と最も高く、中部地方 10.8%、近畿地方 7.0%、九州地方 2.6%、中国地方 1.7%と続きます。愛知県内からの転入者は 12.7%と全体の 1 割強を占めており、春日井市が 1.6%と最も高く、豊田市が 1.0%と続きます。名古屋市内の転入者は 37.4%と全体の 4 割弱を占めており、名東区が 6.9%と最も高く、昭和区 4.4%、東区 3.6%、中区 3.5%、守山区 2.9%と続きます。また、国外からの転入者数は全体の 7%となっており、近畿地方や名東区からの転入者数に匹敵しています。

図 2: 千種区の地域別転出者数の割合 (%)



※中部地方は愛知県を除く

平成 22 年 10 月から平成 23 年 9 月までの千種区の転出者は市内間の異動を含めると、12,439 人でした。転出先を地域別に見ると(図 2)、愛知県外への転出者は 51.5%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が 20.3%と最も高く、中部地方 9.0%、近畿地方 7.1%、九州地方 2.9%、中国地方 1.5%と続きます。愛知県内への転出者は 13.1%で、春日井市が 1.8%と最も高く、一宮市が 0.7%と続きます。名古屋市内の転出者は全体の 35.5%を占めており、名東区が 6.6%と最も高く、昭和区 4.6%、東区 3.6%、中区 3.3%、守山区 3.2%と続きます。また、国外への転出者数は全体の 8%となっています。